

《令和5年度》 児童発達支援事業山形コロニー ういる天童 保護者アンケート&自己評価 集計結果表  
【情報公開用】

児童発達支援事業山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域みなさまに安心して利用していただくことを目的としています。  
なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。

○：おおむね良好といえる ▲：より良くしていきたい ×：改善が必要

	チェック項目	保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○ 「活動によってはスペースが不足では」との意見あり	○	・一人ひとりの療育活動の目標や課題設定等に応じ、人数等も考慮して個別～小グループで活動しています。施設には個室、教室、多目的ホール、庭等を設置し季節の遊びも取り入れています。近隣の公園等も利用し地域の中での活動を行っています。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	○	▲	・定められている保育士等の配置基準は各ユニット2名ずつですが、当事業所は基準より多い職員を配置しています。 ・職員は、保育士12名、児童指導員1名、社会福祉士3名、精神保健福祉士1名など、国家資格等を持つ職員を配置しています。 ・今後も母子療育等の技術向上を日々図っていけるよう職員全体で取り組んでいきます。
	③ 事業所の空間や設備等は、子どもたちの活動に合わせた環境になっているか。また、環境には分かりやすい工夫やバリアフリー等の配慮がなされているか	○	○	・当施設は、療育環境としての安心・安全と、全ての利用者にとって分かりやすい環境を追求した『構造化された施設』です。また生活する上での経験や機会を提供できるよう環境を準備しています。また、地域福祉拠点としても、障害のある方や高齢の方等、どなたでもアクセスしやすいバリアフリー環境です。 ・お子さんそれぞれに分かりやすさは変わりますが、伝わりやすい工夫を今後も検討し進めていきます。
	④ 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	○ 「手洗い場付近が濡れている」「埃が目立つ」との意見あり。	▲	・施設内は常時換気、遊具等を清掃・消毒等は毎日行い清潔な環境を整えるよう心掛けています。 ・マット等を敷くのは転倒のリスクもあるため、洗面台下にタオルを設置し拭くという対応を行ってまいりました。 ・建物の経年劣化もあり、環境のメンテナンスについては都度改善します。より清潔を保っていただけるよう保護者の皆様とも連携していけるよう努めます。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	-	▲	・毎日、朝夕のミーティングで共有・振り返り等を行っています。その日の目標や目的、活動内容を確認し、その後次回の活動にどのように反映させていくか全体共有し設定する等、PDCAの実践を日々行っています。 ・限られた時間の中で、計画したことの具体的な振り返りと次回に向けた取組みを全体で共有していけるよう伝達方等を検討しながら継続して参ります。
	⑥ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	-	○	・保護者の意見から、当事業所の見え方や私たちが気付かなかったこと等、多くの学びがあります。意見や意向の背景を考え続けることも大事にしています。今後もアンケートに限らず頂いたご意見への対応や改善策等を考え、より良い事業所づくりに努めていきます。
	⑦ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	-	○	・このアンケート結果をホームページで公表し、周知することで情報公開を行っています。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	-	○	・法人全体では、適切な事業所運営のために内部監査を実施しています。今年度も法人内研修で、職員間でのチェックを行い、監査する側・される側として互いに向上できるようにしています。様々な意見を取り入れ、より良いサービスの提供に繋がれるよう努めて参ります。
	⑨ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	-	○	・法人全体研修や事業所研修等、年間研修計画に沿った職員研修を実施し、専門性の向上を図っています。 ・今年度下半期では法人の全職員が集合し、課題について様々な立場の職員同士で意見交換を行いました。 ・普段の活動を通して支援の土台となる基礎的スキルの確認等を重ねてきましたが、専門性の向上を1人1人がより図っていけるよう、今後も継続して研修等に参加して参ります。

適切な支援の提供	⑩	子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた児童発達支援計画が作成されているか	○	○	・現状の課題や成長段階を客観的に確認し、達成できる目標を意識したプランニングをしています。今後も、お子さんの成長や状況に応じた個別～小集団等の活動の提供に努めて参ります。保護者や利用児童の置かれている環境や実情に寄り添い、様々な不安や疑問等を話し合い、具体的な実践に繋がるよう今後も努めて取り組んで参ります。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	-	▲	遠城寺式発達検査表等を用い、客観的評価で発達課題を確認し、療育プランへ適時反映していくよう努めて参りました。アセスメントツールの意味や役割を再度確認し、全体での共有を進めていけるよう努めて参ります。
	⑫	子どもの支援に必要な「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目が、児童発達支援計画で設定され、支援が提供されているか	○	○	・当事業所では、これらの項目が全児童の個別支援計画にもれなく位置づけられています。 ・計画書にのっとった支援の提供を行えるように努めることと、活動時に保護者と遊びや関わりの様子を振り返り、状況の変化等を共有し、実践することを行い、適切なサービス提供へ繋いでいけるよう、より一層全体共有を進めて参ります。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	-	▲	・療育活動等の設定は、全て計画に沿ったもので進めています。 ・計画に位置付けられた発達課題を、日々の療育活動の中でどのような視点をもって進めていけるか、遊びの内容の検討や工夫等を行っております。目標に対しての関わりや遊びを利用児童・保護者と共有していけるようフィードバック等に力を入れて取り組んで参ります。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	-	○	・個別支援計画に基づく活動プログラムの立案→検討→決定は、毎日のミーティングや共有で、全スタッフの意見や客観的な指標をもとに検討を重ねています。母子通所の時間で「楽しさ」や「どうしたらいいの？」という不安、そして「成長」等を一緒に感じ、悩みながらも進めていけるよう今後も検討を重ねて参ります。
	⑮	活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○	▲	・活動プログラムは支援計画に沿い、活動を設定しています。個々の状況やお子さんの生活環境等に応じて課題設定等を調整するなど、達成可能な設定を重視しています。 ・支援計画の共有、個別の目標と現状の発達・成長の段階を全体で共有し、遊びや関わりの工夫等を日々確認や更新に努めております。これからも、保護者の方と活動を通して共有やフィードバックを行い「今日もできたね」を親子で重ねられるように取り組んで参ります。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	-	▲	・計画時において個々の成長や課題を確認し、個別・集団の活動設定を検討しています。お子さんの成長や現在の環境から考えられる対応等を、小グループや個別の遊びで展開できるよう努めています。今後も現状の活動の様子や関わり方の共有等を保護者の方へ伝え、繋がっていけるよう職員一同取り組んで参ります。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	「時間通りにはじめてほしい」との意見あり。	○	・職員間で検討し作成した、日ごとの『支援管理表』を使用しています。限られた時間ではありますが、確認する時間を毎日もち、支援者の1日の動きや支援内容、利用状況、役割、事業所としての動きや対応（見学等）を具体的に伝達し共有するよう努めています。 ・子ども達が活動へ参加しやすい設定や環境、雰囲気等を都度見直し取り組んで参ります。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	-	▲	・支援終了後に毎日振り返りを行っています。支援の設定やねらいへの取り組み、遊びの中での気付いた点等を確認し、次回の対応について意見交換し、反映させています。 ・限られた時間内で全体運営～職員それぞれの気付きの共有等を行っています。打合せや紙面で今後の動きについて具体的な確認ができるよう努めておりますが、今後も業務等の見直しや工夫を行って参ります。
⑲	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	-	▲	・職員には、支援状況等が正しく読み取れる記録技術を事前に確認し、記載後の内容についても再確認をし修正等を行っています。 ・今後も記録をつける中で、土台となることの確認から、求められている記載内容や情報、適切な記入によって活動の振り返りや活動内容の設定等へと進めていけるよう努めて参ります。	

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の母子活動時や、帰りの対応時、または面談の場を設定する等して、保護者等から話を伺う機会を大切にしています。</li> <li>・通園先や関係機関等との連携を重視し、適時連絡や訪問・見学を行っておりますが、継続して情報共有をし、モニタリングできるよう努めて参ります。</li> </ul>
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最も心ざわしい者が参画しているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。</li> <li>・外部連携時には、事前に支援員等と情報共有を行い、現在の活動状況を確認しています。今年度は支援員と訪問を行い、環境設定等の直接見て確認することをしました。今後も直接見て、意見交換等をする機会をもち、より良い連携に努めて参ります。</li> </ul>
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	-	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の母子保健担当者や発達相談室等と連絡や訪問を行い、お子さんの状況を共有しています。ういる天童の活動についても直接伝える機会をもつよう努めています。</li> <li>・今後も、療育での状況等を継続して伝え、相談できる関係性をより築いていけるよう取組んでいきたいと思ひます。</li> </ul>
	㉓	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保健や医療、子どもの主治医、福祉や教育等と連携した支援や連絡を行う体制を整えているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は、医療的ケアを要する児童を対象とした事業設定ではないため、体制や設備を整備していません。</li> <li>・現状の地域課題の概要や具体的な支援の必要性について学ぶ機会を研修を通してもっています。医療的ケアではなくとも、医療等との連携を重要視し、必要によりかかりつけ医等と連携して支援を行っています。</li> </ul>
	㉔	移行支援として、保育所や幼稚園等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園や幼稚園を併用する児童が多いので、コロナ禍であっても、できる限り在籍園に訪問や連絡等を行い、現状や目標等を共有したり、互いの環境等を知る機会としても連携に努めています。</li> <li>・連携した内容を確認し、療育環境としてどのような設定をもち進められるか検討と実践に努めて参ります。</li> </ul>
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学を見据えた療育活動は、当事業所が最も重要視している考え方です。活動を通して、具体的な就学準備を進められるよう機会を提供しています。</li> <li>・健康課、教育委員会、保育園等をお互いに訪問や連絡を行っています。併用する児童が多いので、小学校等への移行連携は園が主体となる傾向がありますが、療育との共有をしてから話合いがもたれたり、機会が増えています。今後も、移行支援の機会を継続してもち、共有と連携を進めて参ります。</li> </ul>
	㉖	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の児童発達支援センターから助言を受けることはありません。また、地域で行われる各種研修には参加しています。</li> <li>・コロナ禍が明けて、専門医の研修を受けたり、これまでの指導・助言を振り返り、支援の土台を日々確認しています。</li> </ul>
	㉗	地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が明け、感染者の増加にも配慮した中で地域交流会「天童コロニー祭り」の開催を規模は縮小しましたが開催することが出来ました。</li> <li>・「子育てひろば」として施設を一般開放し、皆さんの遊び場の提供を行いました。</li> <li>・日常から地域を活動の場としており、挨拶等で顔を合わせる機会を大事にしています。また、隣接する公園は向かいにある保育園の園児、地域のお子さん達と共有しております。</li> </ul>
	㉘	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も継続して相談支援部会が設置・運営されました。今後、児童発達支援に関連する事業等があれば参画していきたいと考えています。</li> <li>・常日頃関わるケースから見える地域課題を確認し、小さなことと思われることであっても、相談や解決の必要があれば問題提起できる事業所でありたいと考えております。また、地域の事業所等との連携を図り、お互いにより良い活動に発展していけるよう今後も継続して努めて参ります。</li> </ul>
㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おたより」の活用や、母子活動時、お迎えの時等に保護者の方へ話をする時間を持てるよう継続して取組んでいます。</li> <li>・活動の様子を保護者と共有し、お子さんの状況が分かりやすく、また、家庭との子育てとイメージが結びつきやすいよう、伝え方や環境づくりに日々努めております。今後も親子の関わりや具体的な遊び方、利用の方法等の相談や提案に職員一同で努めて参ります。</li> </ul>	

30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段の母子活動等で、遊びを通してお子さん自身が「楽しい」と思えたり、保護者の方が安心して活動できるよう信頼関係を築くことから始めています。安心できる人や環境を徐々に広げる中で、関わり方、声のかけかた、褒めるポイント等を個々に合わせて共有や確認を進めています。私たちもよりペアレントトレーニングを学び、お手本となれるよう努めて参ります。</li> </ul>
31	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、随時説明し、同意をいただいています。私たち自身も制度等や事業運営について、「なぜこのようになっているのか？」を職員全体との理解を深める取組みを継続して行って参ります。</li> </ul>
32	保護者に対して、面談・相談・助言等の支援が行われているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 家庭生活から社会の場での活動（園、療育等）全般について、「どうしたらいいんだろう」と感じることに思いを寄せられる事業所であるよう、日々の活動を重ねています。相談機能として不足していることを全体で気付き補いあいながら今後も進めて参ります。</li> </ul>
33	児童・保護者が一同に介する行事等の開催等により、保護者同士の連携・関係づくり等が支援されているか	▲	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段の母子通所の活動で、保護者同士が顔を合わせ、声をかけたり、繋がりをもつ機会になっています。</li> <li>• 新型コロナにより機会を縮小してきた点もあるため、今後は制限から目的を重視した機会の再開を目指していきたいと思ひます。</li> </ul>
		「保護者同士の交流の場がもう少しあると嬉しいです」との意見あり。		
34	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 苦情受付体制は契約時に説明しています。また、掲示、直接受付の実施予定等を連絡網等でご案内しています。今年度も第三者委員の直接受付を2回開催しました。次年度も継続して取組みたいと考えております。</li> <li>• 活動する中で、利用者の皆さまからの様々なご意見を運営に活かしていけるよう受付体制や環境の調整等を今後も見直して参ります。</li> </ul>
35	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主にホームページにて活動のトピックスを紹介しています。長期休暇時には感染症対策等について連絡網を活用し発信しています。土曜開所は継続して館内掲示も行い皆さんが活動を知る機会をもっています。今後はういうる児童の療育についてや環境設定等を発信していけるよう努めて参ります。</li> </ul>
36	個人情報に十分注意しているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個人情報は、保護規定に沿って管理しています。契約時に書面を取り交わすことを継続しております。日頃から情報を取り扱っている意識を向上できるように職員一同努めております。今後も個人情報の取扱い等について法人内の保護規定の更新、取組みや注意喚起の継続と、職員教育に取り組んで参ります。</li> </ul>
37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発達段階や関わりの中で、個々人に合った伝達方法を検討し、合理的配慮をもって伝えられるように取組んでいます。具体的に提示する等、必要により言葉を補充するツール等も活用し、お子さんが「わかった」や「伝わっている」と感じられ、周囲と繋がるための手立てを互いにもっていけるよう支援しています。</li> <li>• 表情や動作等、どのように意思疎通を図ろうとしているのか確認しています。発達段階も鑑み、同様の手段だけにならないよう検証と実践を繰り返しています。</li> <li>• 親と子だからこそより強く伝えることもあれば、思いが跳ね返ってきてしまうこともあります。いろんな思いを受止めて、一緒に進めていくことを今後も大事にしていきたいと思ひます。</li> </ul>
		「情報伝達がなされていないことがあった」との意見あり。		
38	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今年度も継続して地域の子育てサロンへ参加し交流を続けてきました。「コロニー祭り」は規模を縮小しての開催でしたが地域の方々にもお越しいただいています。また、地域にお住まいの誰でもが遊びに来られるよう「子育てひろば」を初めて開催し、遊び場の提供を行っています。近隣の事業所に駐車場を貸し出したりと、施設を必要に応じて活用していただくことも継続しています。地域の一つの資源として活用していただけるよう、今後も日頃の挨拶や地域貢献活動等を続けて参ります。</li> </ul>
39	緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 緊急時や感染症等の対応マニュアルや業務継続計画を現状に合わせて都度修正・整備し、管理しています。現在も消毒、手洗い、マスク、非接触または実測検温、常時換気を行い安全安心な環境の維持に努めています。</li> <li>• 保護者への配布はしていませんが、日頃から活動時に訓練を行うことを周知・説明を図っております。</li> </ul>
		「訓練などにまだ参加していないのでわからない」と意見あり		
40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。都度1週間の訓練週間をとり、全利用児の方に参加していただいています。</li> <li>• 感染対応についても変更等があれば都度全体に周知を図り、毎日開設し続けられるようリスク管理体制の強化をして参りました。今後も継続した訓練と、考えられるリスクに対するの対応と検証を重ねて参ります。</li> </ul>
		「まだ立ち会ったことがないのでわからない」と意見あり		

非常時等の対応	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	-	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県主催の研修に法人内から毎年参加しております。また年1回以上は、全職員に法人内・外で研修する機会を継続して持っています。日常のミーティング等でも活動の中での気づきを全体で共有し、早期発見・虐待防止に職員一同努めて参ります。</li> </ul>
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強度行動障害児等、活動に安全管理等が必要なケースは、具体的な対応等を計画に入れ、その内容を説明し、同意を取っています。また、対応の機会を作らないための支援を第一義とし、やむを得ず対応を要する時は、必要最小限の対応と支援内容の記録等を行える体制を整えています。</li> <li>・職員一人ひとりの理解と全体としてどのように取り組むかを「正しく」理解し、組織的な支援・環境の調整等を確認し徹底したリスク管理に努めていきたいと思えます。</li> </ul>
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	-	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただいたり、個々の実情に基づいた確認を行い提供しています。また、日常のおやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。</li> </ul>
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	-	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット等は、職員間で毎日チェックと共有を行っています。関わり方や環境設定等について次回からの活動で調整をしています。リスク管理として安全な環境・職員の配置、遊び方等を都度検討し対策を実行しております。今後も必要な視点や気づきを全職員でお互いにもっていけるよう継続して行って参りたいと思えます。</li> </ul>
満足度	④⑤	子どもは通所を楽しみにしているか	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ういる天童では母子通所と一時預かりのサービス提供を行い、ご家庭やお子さんの状況等に応じて活動の幅を広げていけるよう努めています。</li> <li>・園とは異なり毎日通所するお子さんが違ったり、体制も変わるため、戸惑いを最小限にできるよう職員同士で状況の共有や対応等について都度確認をしています。活動を通して、子育ての困り感やうまくいかないことに一緒に悩みながら「今日はこんなことができたよ!」と伝え、笑顔で帰り、家庭でも褒められる機会をもてるよう日々努めています。</li> <li>・『子育て』は家庭環境、年代、生活歴等が交ざり合い多様化しています。なぜ今時間を割いて療育に通っているのかを常に念頭に置き、親子の思いに寄り添い続けられる場であるよう今後も一層努力して参ります。</li> </ul>
	④⑥	事業所の支援に満足しているか	○	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>ういる天童ではこれまでも母子療育を通して「子育てサポート」をしていきたいと思ひ活動しています。現在は様々な選択肢がある中で、母子通所をしてくださっている皆さんの思いに気づき、繋がろうとしているのか常に振り返る必要があります。お子さんにとって未就学期の限られた時間で、大人の関わりを増やし、丁寧に機会と経験を積み重ねていくために大切なことは何かを問いながら日々確認をしていきたいと思ひます。また、運営の形態やどのような療育のニーズがあるのかに気づき、実践し、お一人おひとりの満足を高めていけるよう職員一同、邁進していきたいと思ひます。</li> </ul>

職員の配置状況（令和6年1月31日現在）

施設長：1名、児童発達管理責任者：2名（常勤専従2）、保育士：12名、児童指導員：1名

職員の資格 等（令和6年1月31日現在）

社会福祉士：3名、精神保健福祉士：1名、介護福祉士：3名、保育士：12名、児童指導員：1名、  
強度行動障害支援者研修修了：6名、リズム運動指導者研修修了者：2名  
職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など